

新規感染1日600人なら週明けに

1/16 毎日



新型コロナウイルスの感染者対応に追われる大阪府入院フォローアップセンター——大阪市中央区で2020年12月、木葉健二撮影(画像の一部を加工しています)

新型コロナ

新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が発令された大阪府で、病床不足の危機が迫っている。府は1日当たりの新規感染者数が600人程度で推移すれば、重症者用と軽症・中等症者用がいずれも週明けに確保病床を上回る恐れがあると試算。吉村洋文知事は病床の確保に向け、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき医療機関側に要請より強い「指示」を検討している。

府内では7日の感染者数が初めて600人を突破して過去最多を更新し、9日まで3日連続で600人を

大阪迫る病床不足

上回った。15日も568人と高止まりが続き、重症者は最多の187人になって

いる。

府が12日に公表した試算

によると、1日当たり600人程度の感染が確認され続けた場合、重症の入院者は数は20日に237人に上がり、確保にめどがついた病床数(236床)を超過。

軽症・中等症者用の病床(1342床)も19日に15床の不足が生じ、1月末には約200床が足りなくなれる恐れがあるという。

こうした状況を受け、府は府立病院協会などの医療団体と病床確保の調整を進め、医療機関に改めて協力を求める。吉村知事は15日、この調整が難航した場合の対応を定めた特措法を

条に基づき、各団体により強い指示を検討する考えを明らかにした。協力要請より強い措置になるが罰則規定はない。

府内では精神科病院などを除く476の医療機関のうち、感染者の受け入れ病院は6日現在で90カ所。計

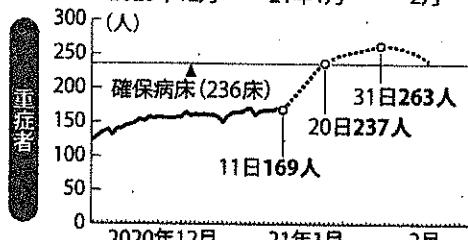
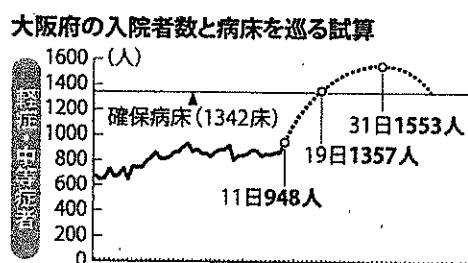
入れ実績がない約110の2次救急病院に協力を求めた。

計200床の増床を目指すが、求めに応じたのは約10病院で計約30床(12日現

在)にとどまっている。府はより強い措置での病床確保を模索している。

【芝村侑美、石川将来】

医療現場悲鳴
実情理解して
動きについて、医療現場か



※府が12日に公表した資料に基づき作成

らは「感染者を受け入れたくても応じられない病院の実情を理解してほしい」との声が上がる。

府から20年末に協力を要請されたある2次救急病院は「提携可能な病床数を0床」と回答した。呼吸器科がないため専門医がおらず、患者が重症化した際に必要な人工呼吸器を配備していない。事務長は「2次救急と言っても、それぞれ得意分野がある。簡単に手は挙げられない」と話す。

病院経営上の理由も大きい。感染拡大で受診を控える外来患者が急増し、経営悪化が深刻化している。府は病床確保に協力した医療機関に3000万円の支援金を支給する制度も打ち出しだが、「感染者を受け入れれば一般患者の受診控えが進む懸念もある。300万円ではまったく足りない」と語った。

【野口由紀、石川将来】